

**製品名: TAK1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21459**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:67kD;Observed MW:67kD

**抗原情報**

遺伝子名	MAP3K7
別名	MAP3K7;TAK1;Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 7;Transforming growth factor-beta-activated kinase 1;TGF-beta-activated kinase 1
遺伝子 ID	6885.0
SwissProt ID	O43318
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

**背景**

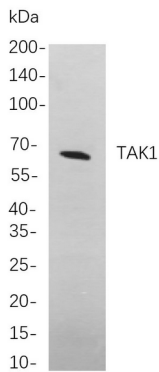
細胞局在: 細胞質、膜。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン/スレオニンタンパク質キナーゼファミリーのメン

バーである。このキナーゼは、TGF $\beta$  および形態形成タンパク質 (BMP) によって誘導されるシグナル伝達を媒介し、転写調節やアポトーシスを含む様々な細胞機能を制御する。IL-1 に応答して、このタンパク質は TRAF6、MAP3K7P1/TAB1、および MAP3K7P2/TAB2 を含むキナーゼ複合体を形成する。この複合体は核因子  $\kappa$ B の活性化に必須である。このキナーゼは MAPK8/JNK、MAP2K4/MKK4 も活性化するため、環境ストレスに対する細胞応答において役割を果たす。異なるアイソフォームをコードする 4 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



A431 細胞のライセートのウエスタンブロット解析。TAK1 ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。